

中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商 学部	身分	准教授
氏名	田中 鮎夢		
NAME	Ayumu Tanaka		

1. 研究課題

(和文) 日本企業のグローバル化の研究

(英文) Research on the globalization of Japanese firms

2. 研究期間

1年間 (2020 年度)

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文) 海外市場の拡大・国内人口の減少等を背景にして、日本企業のグローバル化 (輸出・海外進出・海外生産委託など) が進んできた。Melitz (2003) や Helpman et al. (2004) などの「新々貿易理論」の理論研究とそれに基づく実証研究により、企業のグローバル化については、21世紀に入り、膨大な研究がなされてきた。それらの研究は、企業のグローバル化の決定要因として、企業の生産性に注目している。これまでの研究により、生産性の高い企業のみがグローバル化を果たすことができるということが共通認識となっている。しかし、日本企業のグローバル化については進出する国や業種による違いも大きく、未解明の点が多い。そうした状況を踏まえ、本研究の目的は、日本企業のグローバル化の実態を解明することであった。研究期間中に、新々貿易理論の理論を詳細に検討し、Melitz (2003) の理論を拡張し、不完全な労働市場を考慮した時に、賃金格差がどうなるかを解析し、論文「貿易と労働に関する最近の研究: Helpman et al. (2010) モデル」(吉見大洋編『トランプ時代の世界経済』(中央大学経済研究所研究叢書))に結果をとりまとめた。さらに、日本企業のグローバル化について統計分析を行なった結果を論文「The Effects of FDI on Domestic Employment and Workforce Composition」にとりまとめた。同論文は中央大学企業研究所『企業研究』第39号に掲載が予定されている。

(英文) Facing the decline of the domestic population, Japanese firms have been globalized. Following Melitz (2003) and Helpman et al. (2004), a vast amount of research has studied the globalization of firms. However, there are still many unanswered questions about the globalization of Japanese firms. To clarify the globalization of Japanese firms, I extended Melitz (2003) to analyze the wage gap when incomplete labor markets are taken into account. Also, I conducted a statistical analysis of the effects of FDI on domestic employment and workforce composition.